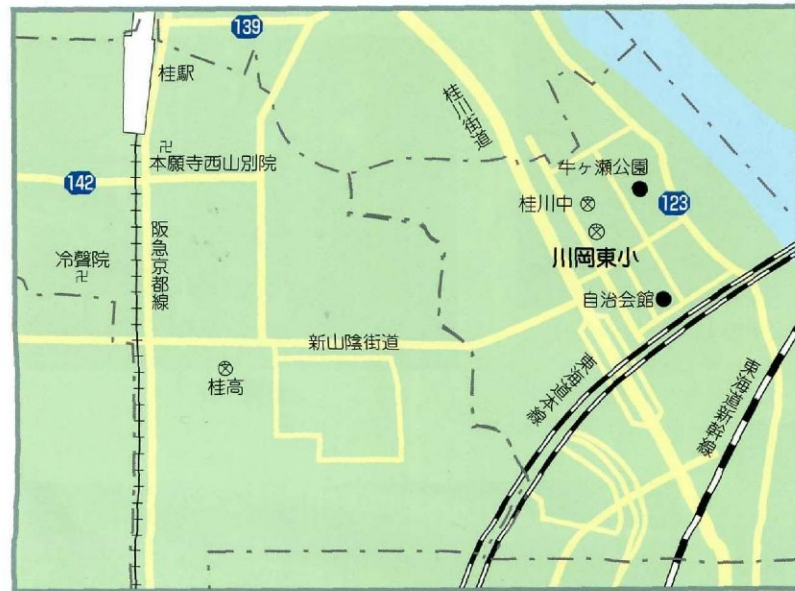


川岡東学区



データファイル

- 人口 7,715人
- 世帯数 2,938世帯
- 面積 0.896km²

*平成17年国勢調査(10月1日現在)



住みよい学区,ふるさとと想える街をめざして!!

川岡東学区は、下津林の一部と牛ヶ瀬地区からなり、川岡学区から昭和57年分離誕生しました。

自治会館北側に、「侍墓」「お松の墓」と言われる古い石碑が祀られ、大阪夏の陣の翌年の石碑もありました。豊臣家の家臣に仕えた武士が隠とんしたとか、鳥羽伏見の戦いでは村人が落武者を埋葬、それは賊軍となった松平勢の軍であり、会津藩若松の武士かも知れず、それらが名前の由縁かも知れません。

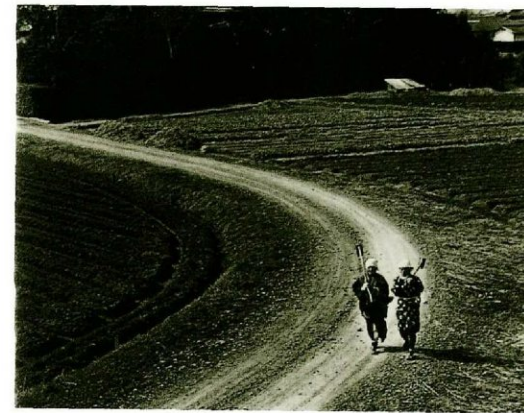
平成13年に新しい本堂が建てられた称讃寺。そこには、もと、青柳山観音寺がありました。平安遷都の頃、泉（楊柳水）に映った観音像を傍らに倒れた柳木に刻み、延鎮僧都が開山。後に伽藍が建立され、側に坊舎を構え「奥の坊」と称しました。応永の頃（室町時代）、諸堂は兵火で焼け、南の田中の草堂に観音像を安置、人は「堂田（どうでん）」といいならわし、これらは町名となっています。堂田からは明治の始め六体地蔵が掘り出され、現在牛ヶ瀬の称讃寺境内に祀られています。

称讃寺の東、春日神社の境内に、戦没者を鎮

魂するブロンズの平和祈念像、泉の像があります。ここは戦争中、青年達が出征していった場所でもあり、多くが再び還ってくる事はありませんでした。「死者の魂は白鳥になって天空に翔び立つ」という古い言い伝えと神話を主題に戦後五十年を機に平成7年に建立されました。泉の像の名は、戦前までその北側に湧き出していた楊柳水によります。

桂川の洪水の危機にさらされたこの地域では、戦前までJR高架下に、鉄道を守る水抜き役割を果たすレンガ造のアーチ型トンネル（まるがた）がみられ、洪水の勢いを弱める藪も存在して、狐狸の里でもありました。

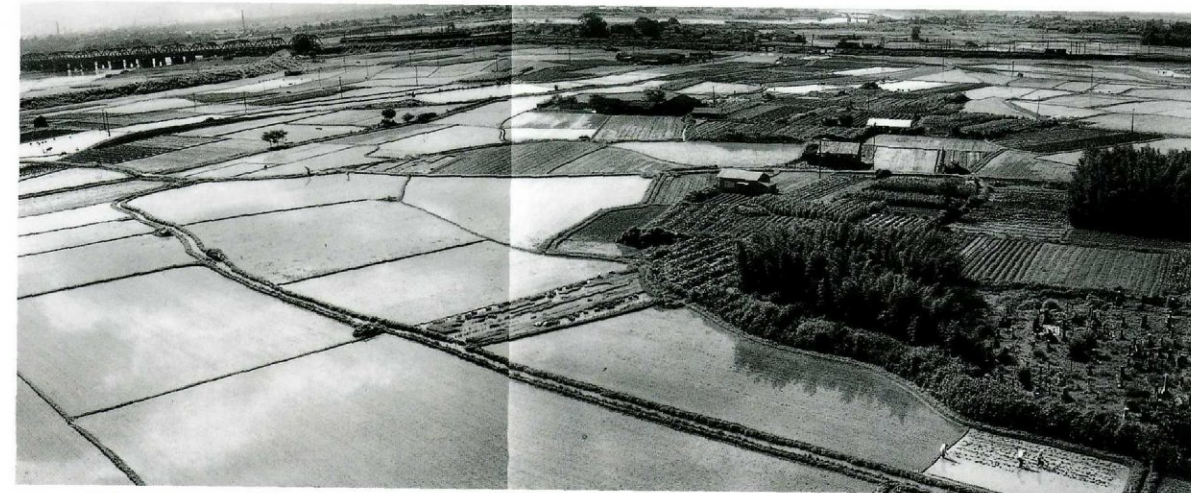
昭和40年代以降の区画整理を経て、田畑の広がるのどかな風景から、生活に便利な市街地の風景に大きく変貌。これからも住民の方々に自分たちの住む地域のことをよく知っていただき、より住みよい学区、そしてふるさとと想える街として発展していくよう、念願しています。



畑仕事に出かける嫁と姑 昭和15年牛ヶ瀬



旧青柳山観音寺（旧称讃寺本堂）
昭和48年頃



下津林の墓地付近より川岡東学区東南方面を撮影 昭和32年（現在区画整理により市街地として変貌）



敬老会



みまもり隊発足式（平成18年7月）



川岡東学区子育て支援サロン「みるくらぶ」
（桂川園で高齢者との交流会）



平和祈念像「泉の像」